

天皇陛下「人と人との結び付きが、やがて国と国との平和に」

天皇、皇后両陛下の長女愛子さまが17日から、初めての外国公式訪問として東南アジアのラオスを訪れる。豊かな自然と仏教文化に彩られた親日国で、両国の協力関係が息づく現場や、ベトナム戦争の傷跡など、歴史や平和の尊さに触れる旅となる。

外交関係樹立70周年にあたり、ラオス政府から招待を受けた。18日にはトンリン・シーリット国家主席を表敬訪問。首都ビエンチャンと古都ルアンプラバンに滞在し、22日に帰国する。

「人と人との結び付きが、やがて国と国との平和に結び付いていくことになるのではないかと思います」。国際親善を重要な務めにあげる天皇陛下は、皇太子時代から皇后さまと多くの国々を訪れ、今年2月の会見で、外国訪問への思いをこう語った。ラオスにも2012年に単独で訪問。今回、ご一家で当時のアルバムを開き、現地のことを話しているという。側近は「両陛下は、これまでの外国訪問の経験を踏まえて助言されるとともに、今回の訪問が友好親善の増進につながることを願われている」と話した。

愛子さまは10月31日、ラオスの歴史に詳しい菊池陽子・東京外語大大学院教授から進講を受けた。

愛子さま、ラオスへ 初の外国公式訪問 女性皇族が紡ぐ 海外との絆

未婚の女性皇族による外国公式訪問 元皇族を含む


黒田清子さん
上皇ご夫妻の長女
紀宮さま
1995～2003年
8回 計14カ国
ブラジル、ブルガリアなど


小室眞子さん
秋篠宮ご夫妻の長女
15～19年
5回 計7カ国
エルサルバドル、
ホンジュラスなど


秋篠宮家の
佳子さま
19～25年
4回 計5カ国
オーストリア、
ハンガリーなど


三笠宮家の彬子さま
13年
チリ


高円宮家の承子さま
23年
ヨルダン
(現地で高円宮妃久子さまと合流)


愛子さま
25年
ラオス
今回

菊池さんによると、王朝時代や植民地時代、内戦などを経た歴史を解説。愛子さまは特に、ベトナム戦争中、ラオスに大量のクラスター爆弾が投下され、現在も不発弾による被害が起きていることに関心を寄せている様子だったという。訪問日程には不発弾問題の展示施設も含まれる。愛子さまは熱心にメモを取り「ラオス史は激動の歴史ですね」と語ったという。

進講には両陛下も同席。すでにラオス訪問の経験がある天皇陛下は、客人の幸せなどを祈るラオスの伝統的儀礼「バーシー儀礼」に参加した。実際のことを振り返り、「心温まるものだった」と愛子さまに伝えていたという。

菊池さんは取材に「ラオスは経済成長率といった数字に表れない豊かさにあふれた国。自然の美しさ、家族やコミュニティの絆の強さといった心の豊かさがある国だということも多くの人に知ってほしい」と話した。

今回の外国訪問は、天皇、皇后両陛下や皇嗣（皇太子）の外国訪問の多くと同様、相手国政府からの招待を受け、閣議を経て決まる大がかりな行事。こうした公式訪問を、愛子さまや秋篠宮家の次女佳子さまら、皇室に生まれた女性皇族が担うようになったの

識者「現地に強い印象、国民からの期待も」

は30年前からに過ぎない。始まりは1995年、上皇ご夫妻（当時の天皇、皇后両陛下）の長女、黒田清子さんによるブラジル公式訪問だった。皇室の制度史に詳しい所功・京都産業大名誉教授によると、皇室に生まれた女性には、修学後ほどなく結婚して皇室を離れてきたため、単独で外国を公式訪問することはなかったという。

そうした慣習を変えたのが黒田さんで、92年に学習院大を卒業すると、山階鳥類研究所に非常勤で勤務する傍ら、皇族としての活動を本格化。結婚により皇室を離れるまでの間、8回で計14カ国を公式訪問した。

その後、現在では秋篠宮家の次女佳子さまや三笠宮家の彬子さま、高円宮家の承子さまといった女性皇族による訪問が活発に行われている。所氏は「特に女性は、和服を着る機会もあり、姿そのものから日本の文化を伝え、現地に強い印象を残してきた。男性にはない苦労も多いと思う」と推し量る。

所氏はこうも言う。「男性皇族の減少もあり、相対的に女性皇族の役割が拡大していった面もあるが、国民の間で女性の社会進出が進んできたことで女性皇族に対する期待も高まったことも大きい」

(中田 紬子)